

### 3.肥料のやり方

#### ①「肥料の量」について

多ければよいというわけではありません。長い間の試験研究や農家での経験から、一定水準の収量や品質を得るための肥料の量が作物ごと、地域ごとにおおよそ決まっています。これは施肥基準とよばれており、なかでも窒素の施肥量が最も重要なものとされています。窒素は作物生育の鍵を握る重要な要素だからです。施肥基準に基づく肥料の量は次のように算出します。

今、チッソの施肥基準値が15g/1㎡とします。窒素15gを10-10-10肥料(チッソ、リンサン、カリが各10%含む肥料銘柄)でまかなうには $15 \div 0.1 = 150$ gの肥料が必要となります。

後に紹介する作物ごとの施肥量はこのように計算したものです。なお、施肥量は、一般にチッソの施肥基準にあわせて決めています。従って、リンサンやカリの施肥基準と多少ずれることもあります。しかし、それらは家庭菜園ではあまり問題になりません。

#### ②「いつやるか、どんな配分でやるか」について

肥料をやる時期ですが、基本的には、作物の種を播いたり、苗を移植するときにやる「元肥」と、作物の生育をみて途中でやる「追肥」の2通りがあります。それぞれへの肥料の配分は、作物の養分吸収の特徴にあわせる必要があります。

#### ③「施し方」について

肥料を畑の全面にまいて土とまぜ合わせる全面施肥と、苗ものを植える穴に施す植え穴施肥があります。

植え穴施肥は一部分に施用されますので、肥料ヤケを起こすことがありますので、各野菜ともに全面施用するのが安全です。

### 4.言葉の説明

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| ①うね        | 種をまいたり、苗を植える列     |
| ②うね幅(うねはば) | うねの幅              |
| ③うね間(うねま)  | うねとうねの間           |
| ④株間(かぶま)   | うね上の株と株の間         |
| ⑤基肥(もとひ)   | 種を蒔いたり苗を植える前に施す肥料 |
| ⑥追肥(ついひ)   | 生育途中で施す肥料         |

## ひとくちメモーその1

### 畦とベットの作り方

**平畦栽培**：鍬で浅い畦を作って種まきや苗植えをしたら、地面をならして均一する方法です。

**高畦栽培**：地面が凸になるように畦を作り、そこに種まきや苗植えをします。

**ベット栽培**：ビニールマルチやトンネルをするために、少し高めで、幅1 mほどのベット（床）を作りそこに種まきや苗植えをします。

注：市民農園の畑土は水はけが良いので、湿害を避けるための高畦は必要ありません。

平畦の方が狭い地面を効率良く使えます。